

New York Report

January 2021

CONTENTS

* Project 1: Outdoor Dining (Winter)

1. Outdoor Dining (Winter)

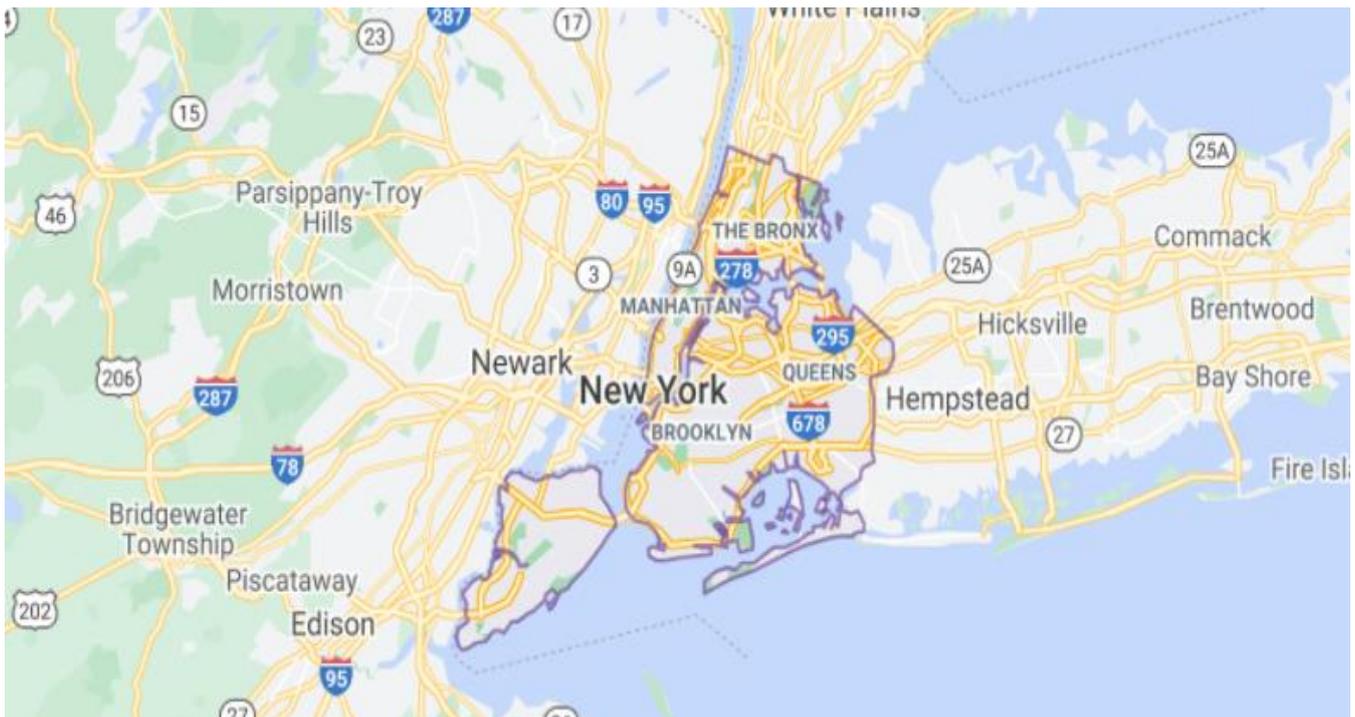
Project Overview

9月に店内25%以下のキャパシティでの飲食が可能になったばかりのニューヨーク市。しかし再びの感染拡大を警戒し、12月上旬に再び市内のレストランでの店内飲食が禁止となってしまった。テイクアウト&デリバリー、サイドウォークでの営業のみ継続が許可されたが、ニューヨークの冬は厳しく、12月でも平均気温は一桁で朝晩はマイナスになるという、店外営業にとっては過酷な状況。さらに、12インチ以上の積雪が予想される場合は、営業を中止しなければならないという、冬季ならではのルールも新しく設けられ飲食業界は厳しい状況下に置かれている。客席の防寒対策が最重要課題となるが、市のガイドラインでは、サイドウォーク席に屋根を設置することは可能だが、かならず2側面の壁は換気のため解放しなくてはならないと定めているため、客席の暖気を保つのも簡単ではない。現在、市が使用許可している業務用の電気ヒーター（オイルヒーターは禁止）は、争奪戦となっているという。12月は飲食業にとってホリデーシーズンのかき入れ時とあって、各店は生き残りをかけて、サイドウォークの客席に最大限の力を注ぎ営業を続けている。透明テントの個室や、特殊ガラスを使用したもの、開閉式の窓がついた小屋、掘りごたつ付きなど、各店様々な趣向を凝らして顧客確保の努力をしている。

Project Details

1. Outdoor Dining
2. Restaurants & Bar
3. Location: New York City
4. Target Customer: All

Location Map





客席がひとつひとつコンパートメントになっている



アウトサイドダイニングの解放感を活かすガラスハウス



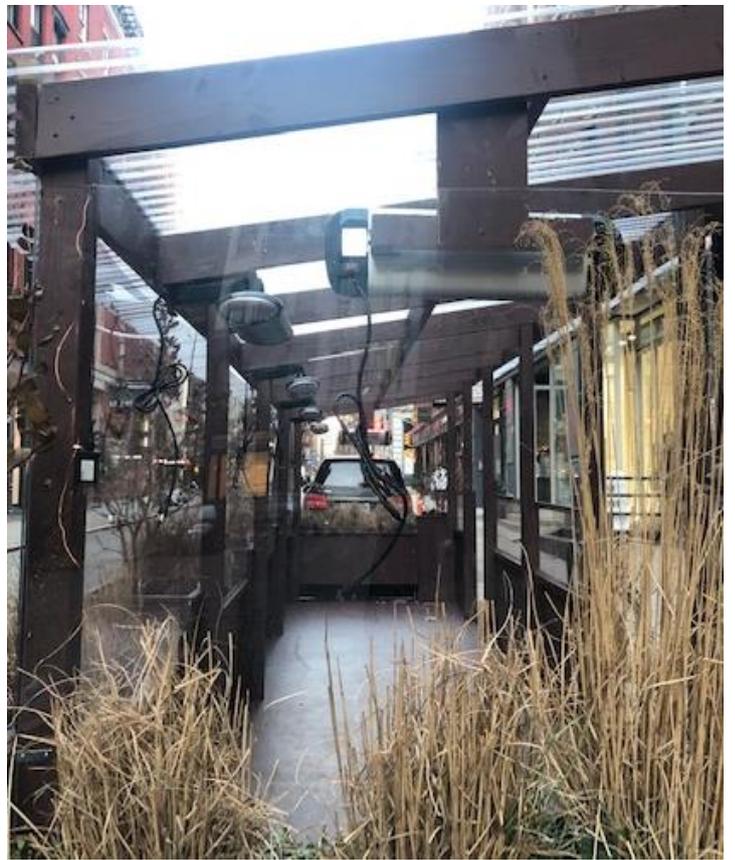
歩道でのサービス



サイドウォークブースにもデコレーションを施し、店の個性を表現



外観をデコレーションする店も増えている



季節感を表現する植栽に凝った店も多い



サイドウォークでの営業が長引き、宣伝のために店名のパナーを大きく表示するブースも増えている



防寒用のストーブも惜しげなく使用



ゆったりスペースをとった個室のガラスハウス



まるで正規店舗のように作りこまれたサイドウォークブース



ホリデーのデコレーションが人気の店



植栽を利用し外観にもこだわっている